

宮崎県教育研究会情報教育部会 夏季特別研修会



延岡地区 発表
『情報モラル教育における延岡地区の実態』



1 情報モラル教育における延岡地区の実態

延岡地区では、地区全体を通してのまとまった研究ができているとはいえないが、共通して行っている取組があり、それに応じて各学校で実践している状況である。

令和元年度「児童生徒の携帯電話・スマホ等の使用状況」に関する調査結果

学年	持っている	持っていない
1	5,142(58.2%)	3,686(41.8%)
2	5,414(64.4%)	2,992(35.6%)
3	5,910(67.6%)	2,830(32.4%)
合計	16,466(63.4%)	9,508(36.6%)

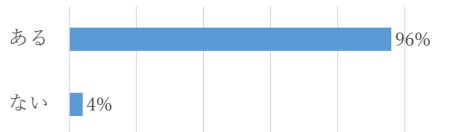
2 宮崎県全体の児童生徒の携帯電話・スマホ等の使用状況

県から報告されている令和元年度「児童生徒の携帯電話・スマホ等の使用状況」に関する調査結果である。

学年が上がるにしたがい所持率は上がっている。また、1学年の時点ですでに半数以上が所持していると報告されている。

延岡市内のある中学校でのアンケート

【資料1】家にあなたが使える情報端末はありますか？



3 延岡市内の状況①

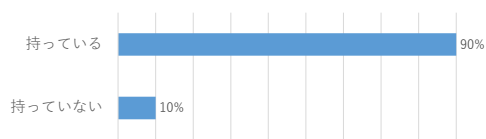
情報端末・・・スマートフォン、タブレット、パソコン

ほぼすべての生徒が、自分で使用できる情報端末を持っていることが分かる。生徒にとって情報端末は大変身近なものとなっている。

また、PS4やNintendo switchのように家庭用ゲーム機でもゲームを通してインターネットの世界に入り、不特定多数とやり取りできる機能を有しているものもある。

延岡市内のある中学校でのアンケート

【資料2】SNSのアカウントを持っていますか。



4 延岡市内の状況②

同じアンケートにおいて、9割の生徒がSNSのアカウントを持っていることが分かる。これは、1つの例でしかないが、各学校ともに同様の状況であることがうかがえる。

これらのことから、中学生にとってインターネット上の繋がりは実生活と密接に関わっており、簡単に切り離すことのできないものになってしまっていると考えられる。

延岡地区全体での取組

○「児童生徒の携帯電話・スマートフォン等の使用の指針」

平成27年4月

○生徒会サミットによる延岡市生徒会共通の合言葉制定

「となりのフィルくん」

5 市内全体での取組

本市では平成27年4月より、市内共通の指針が示されており、各学校の生徒指導部などを中心に啓発を図っている。

また、延岡市生徒会の共通スローガンとして「となりのフィルくん」を制定した。

「児童生徒の携帯電話・スマートフォン等の使用の指針」

必要のない携帯電話・スマートフォン等の通信機器は、児童生徒に持たせない。

使用させる場合は以下の点を守る。

- 必ずフィルタリングを設定し、家庭での使用の仕方（ルール）を決める。
- 夜9時には電源を切る。
- 人を傷つける書き込みをしたり、安易に個人情報を流したりしない。

6 延岡市 「児童生徒の携帯電話・スマートフォン等の使用の指針」

左記の項目を制定し、各学校の生徒の心得や、長期休暇中のお願いなどに盛り込むことになっている。

平成29年生徒会サミット

延岡市生徒会共通の合言葉を制定

となりのフィルくん

平成29年11月に恒富中学校生徒会が発案し
延岡市の生徒会サミット 提案 承認

7 「となりのフィルくん」について①

平成29年に恒富中学校の生徒会が発案したものである。



8 「となりのフィルくん」について②

と・・・トラブルをおこさない
な・・・ながらスマホはやめる
り・・・流出させない
の・・・伸びない学力
フィル・・・フィルタリングをかける
くん・・・9時までよ

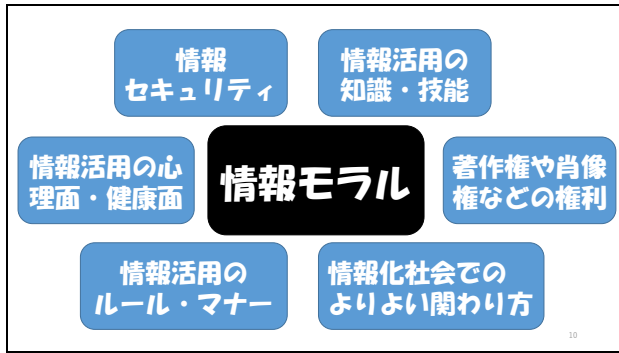
6つの合言葉を合わせてできた「となりのフィルくん」であるが、市内の生徒会でそれぞれキャラクターを作成するなどして活用している。

恒富中生徒会の様子



9 となりのフィルくんについて③

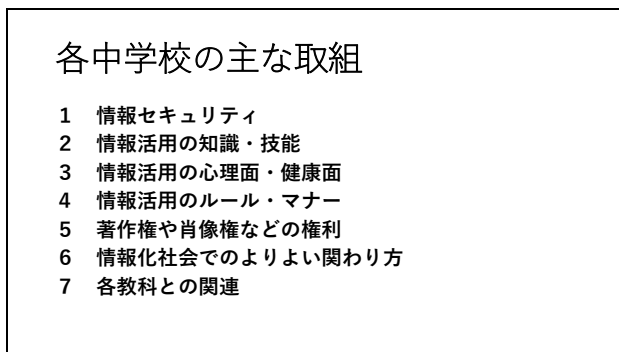
恒富中学校の生徒会ではとなりのフィルくんの着ぐるみを作成し、情報モラルの啓発や学力向上に対しての呼びかけを行っている。



10 情報モラルとは

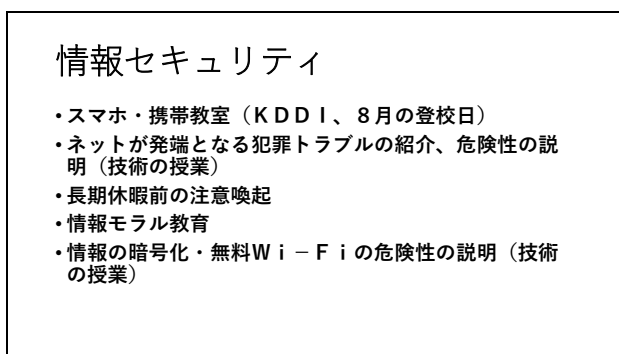
文科省の指針には大きく分けて下記の5つの領域があり、目的や伝えたい内容によってアプローチが異なる。各学校での学習の際にはさらに細かく分類化し、6つの項目において指導にあたった。

「情報社会の倫理」・「法の理解と遵守」・「安全への知恵」・「情報セキュリティ」・「公共的なネットワーク社会の構築」



11 各中学校の取組

先ほどの6つの項目に加え、各教科との関連として、授業中に行った内容も紹介したい。



12 情報セキュリティ

各学校ともに、SNSに関する対応には注意を払っている。そのため、ここに挙げたKDDIをはじめ、過去にはNTTドコモにも講演を頼んだ学校もある。また、技術の授業において特設的にネット犯罪やトラブルについて取り扱ったり、無料Wi-Fiの危険性を取り扱ったりした学校もある。

情報活用の知識・技能

- ・各教科におけるコンピュータの活用
- ・タブレットPCの導入
- ・宮崎県消費生活センターからの講師派遣
- ・Wordで写真を取り入れる
- ・卒業文集をPCで作成する

13 情報活用の知識・技能

昨年度より、市内の全学校にタブレット型PCが導入され、授業における利用が始まった。しかし、利用するにあたってのルール作りや、タブレットにあるアプリケーション（word・Excel・Powerpoint）の使い方やキーボードを使った文字入力の実践が必要な生徒も多く、まだまだ有効利用にあたっては課題が多い。ただ、情報機器が複数あることは学習を進める上で大変有効であるため、今後技能の向上が見込める。

情報活用の心理面・健康面

- ・学校保健委員会で、「子供の成長と睡眠について」の講話
- ・学期に1回、メディアコントロール期間を設ける
- ・保健室だより、体育科通信で啓発
- ・保健だより（目の愛護デー、目の健康週間）
- ・養護教諭による保健指導
- ・携帯電話安全教室の実施

14 情報活用の心理面・健康面

各学校ともに保健面・安全面を担当する部会が主に担当し、適宜情報発信を行っている。特に後述する黒岩小中学校では年間を通して積極的に情報発信を行っている。

著作権や肖像権などの権利

- ・人権や個人情報の保護（授業で実施）
- ・警察署生活安全課の警察官による講話
- ・全校集会などの全体が集まる場で随時指導

15 著作権や肖像権などの権利

権利に関する内容については社会科の授業の中でも取り扱うが、より踏み込んだ内容を取り扱うためには警察官による講話などそれに特化した内容にする方が有効であると考えられる。

情報化社会でのよりよい関わり方

- 道徳で、どのような関わり方をすればトラブルにならないかを考えた
- 夕刊デイリー新聞社の方を講師として招き、ワークショップを行う。
- インターネットの情報がすべて正しいとは限らないことを啓発した
- N I E において情報化社会を題材にしたものを多く取り入れた。

16 情報化社会でのよりよい関わり方

情報化社会との関わりにおいては、直接情報端末と関わらないものもある。それは、画面越しの付き合いでは分からないような個人としてのソーシャルスキルを高める必要があるためである。そのためには新聞のような旧来の情報にも関わりをもつことも有効である。

各教科との関わり

- タブレット型 P C の利用 (全教科)
- 性との向き合い方 (保体)
- 契約と消費生活のトラブル (家庭)
- 「ニュースの見方を考えよう」作り手の意図を読み取る (国語)

17 各教科との関わり

技術科のように直接情報に関わるものではないものの、扱い方や捉え方によって情報モラルに関わるものは多岐にわたり、特に性や経済に関わるものについては SNS 上の広告にも多く登場し、生徒の目に触れることも多い。保健体育科や家庭科においても取り扱うことによって生徒に正しい知識を伝える機会が増えることが生徒を正しい道に導くことにつながることになる。

黒岩小中学校の取組

- メディアコントロールチェックシート
- 保健だよりによる情報発信
- 各種アンケート調査

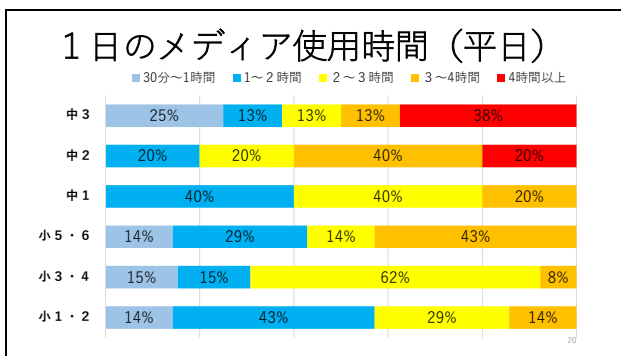
18 黒岩小中学校の取組①

市内でも積極的に情報モラル教育に取り組まれた黒岩小中学校の取組について紹介したい。



19 黒岩小中学校の取組②

長期休暇の際に出されたメディアとの接触をコントロールするためのプリントである。小学生・中学生ともに使用するため、イラストなども多く使い継続できる工夫がされている。

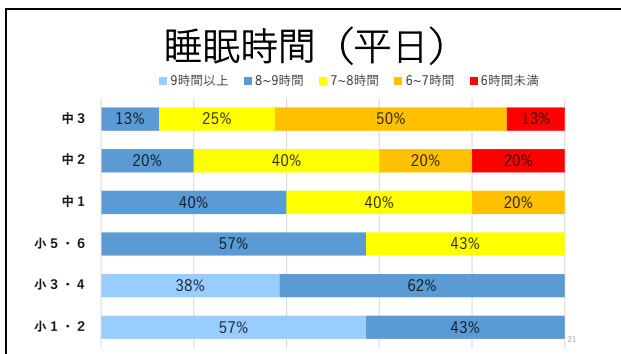


20 黒岩小中学校の取組③

アンケート集計の結果

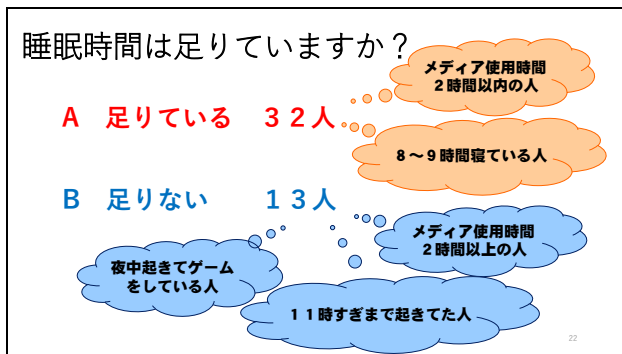
どの学年にもメディア平日の使用時間が2時間以上の児童生徒がいることが分かる。また学年が上がるにつれてメディア時間が増えている。

中学2・3年生はメディア時間4時間以上の生徒がいる。学習の時間も考えると、睡眠時間がかなり少ないことが考えられる。



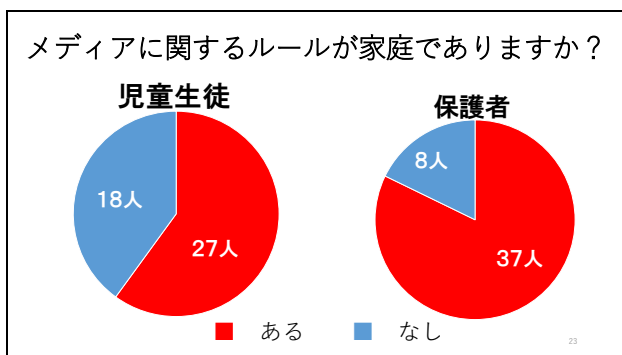
21 黒岩小中学校の取組④

小中学生の必要な睡眠時間は9時間以上といわれている。しかし、9時間以上寝ている児童生徒は1・2年生でも約半分しかいない。中学生は7時間に満たない生徒、6時間未満の生徒がおりかなりの睡眠不足が考えられる。体と心への負担が大きいはずである。日本は世界でトップクラスの睡眠時間が短い国といわれている。成長期の子供たちにとって、睡眠はとても大切である。



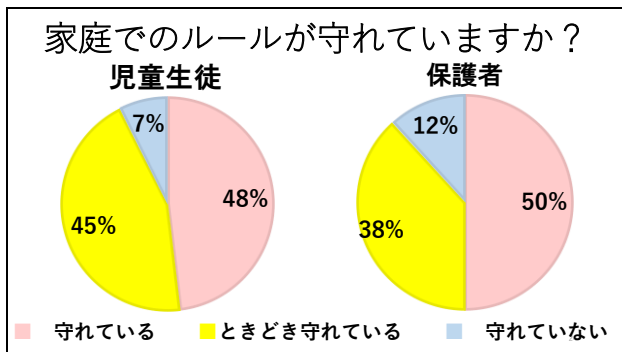
22 黒岩小中学校の取組⑤

とくに中学生になると親の目が届かなくなる場面が多くなるため、アンケート結果からも、児童生徒と保護者で睡眠時間やメディア使用の時間の認識の違いが多くみられた。



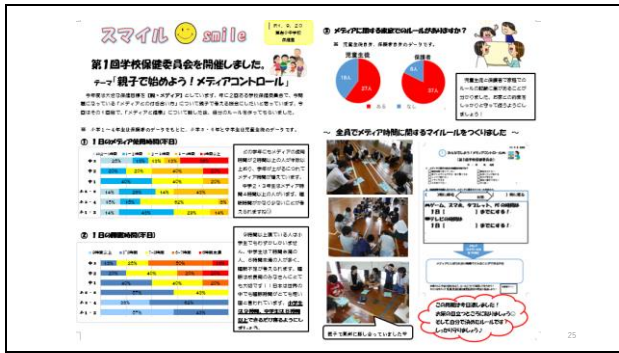
23 黒岩小中学校の取組⑥

ルール作りの認識についても生徒と保護者には認識のずれがあることが分かる。



24 黒岩小中学校の取組⑦

半分の児童生徒はしっかり守れている。あと半分はあまり守れていない。



25 黒岩小中学校の取組⑧

保健だより①

アンケートの結果を学校保健委員会で周知を図ったり、保健だよりを発行してさらに広く伝えたりしている。学校全体として継続した取組をしている。



26 黒岩小中学校の取組⑨

保健だより②

成果と課題

○成果

- ・ 本市にタブレット型PCが導入されたことを契機に、生徒が情報に触れる機会が増え学習に取り組む環境が整ってきた。
- ・ 市内で情報モラル教育に対しての取組が共有され、教育活動の取捨選択をすることができた。

○課題

- ・ 情報機器を取り扱う教員の技能に大きな差があり、インターネットの仕組みやそれに関する用語において生徒の方がより理解してしまっていることもある。しかし、その理解が間違っていることもあり、正しい知識を教員が早めに得るようするために研修の機会を増やす必要がある。
- ・ 今年度のコロナウィルスによる臨時休業期間において、ネット依存やゲーム依存、またそれに伴う様々な弊害に、今後対応を迫られることになると予想される。